

「論文作成」のための特別講座

練習問題 4

高校生になってからの3年間で、あなたは何を学び、どのような能力を身につけたいと考えていますか。500字以上、600字以内で書きなさい。

「論文作成」のための特別講座 練習問題4 解説

典型的な「作文型小論文」の「未来型」である。

「題意」は、受験する高校の募集要項などにあげられている「教育目標」の全部、あるいは一部にそって、自分の「高校生活3年間」→「将来」を描くことである(未来への希望を書くこと)。

必要な、論文内容は、次のような項目である。展開順は、違っていてもよいが、筋道が通っている必要がある(必ず、段落分けすること)。

第1段 「将来の希望」の宣言(高校卒業後の「希望」)

(=「未来の自分」をできるだけ簡潔・明瞭に答える)

第2段 「将来の希望」を考えるようになったいきさつ

(=「過去・現在の自分」)

第3段 「将来の希望」を実現するために必要な学力や技術(題意への回答)

(=「課題」)… 実現したいことと必要な力との間の「距離」。

第4段 「高校生活3年間」で取り組もうとすること

(=「決意表明」)

第1段の「将来の希望」の部分には、将来に希望する「職業」や「資格」を書くことが中心的な内容になる。しかし、「職業」や「資格」だけを書かないこと。たとえば、「〇〇になって(の資格を取って)、◎◎をすることで社会に貢献したいのが将来の希望である」などのように、自分の将来に対しての具体的な、「夢(◎◎の部分)」と「目標(〇〇の部分)=課題」の両方を書くべきである。最低限、どちらか一方は必ず書かなければならない。これがなければ、頑張りようがないからである(少なくとも、次の第2段以降が書けない)。いずれにせよ、高校卒業後に目指す「職業」や「進路」を具体的に書くことが、このタイプの「小論文」の重要ポイントである。

第2段の「過去・現在の自分」には、「将来の希望」を考えるようになったきっかけ(動機)や、過去のいきさつなどを書く。自分があこがれる職域の偉人や先輩、あるいは代表選手などをさらっと紹介してもよい。その後で、その人

たちに、あこがれ、近づきたいと思って、中学校時代までに取り組んできたことなど、具体的に自分を説明する文を書く。中学校時代の体験を書く場合は自分の得意なことを書くことが多い。ただし、その場合は、成功談だけでなく失敗談(あるいは不十分な部分)を書けると評価が上がる(ここで書く「体験」は、「目標」と関連した内容に限る)。「失敗」経験から、自分の克服すべき「課題」をあげることができれば、非常に強い説得力を持つからである。

第3段の「課題」には、将来、手に入れたい「職業」や「資格」に就くために求められる知識内容や技術内容を説明すること。たとえば、「将来は、〇〇で、活躍をしたい。その資格を手に入れるには、△△の学力(技術)が求められる。だから、高校3年間では、その△△の学力(技術)を身につけるために、自分は学業(あるいは、学業と部活)に取り組みたい」と書く方法がある。その場合、「△△」の部分を書き具体的に書くことが重要である。現在の自分の学力(能力)と目指す目標(能力)までの「距離」をうめるために、「高校3年間」で一生懸命に取り組む覚悟を書いて「熱意」を示すこと。第2段に書いた『「不十分な部分」を克服することが課題』などのようにするとよい。(「結論」部分)

第4段「決意表明」では、第3段の「課題」を達成するために「高校生活3年間」で自分が活動したいことをできるだけ具体的に説明すること。特に、受験する学校・学科で学ぼうとすることや、自分が努力しようとする内容・方法を具体的に説明しなければならない。

また、第2段で「失敗談」を書いている場合は、この第4段で利用できる。たとえば、「中学生の試合の時に〇〇のような失敗をした。高校では、このような失敗をしないための練習に取り組みたい…」などのように。

なお、第1段から第3段までの内容と、第4段が密接につながっている必要があることを忘れてはならない。特に、第3段と第4段が矛盾することは致命的で、「0点」の評価となるであろう。

レジュメの「3 作文型小論文を「どう」書いたらよいか? ～「未来の自分」中心型～」(p.16～)を参照すること。